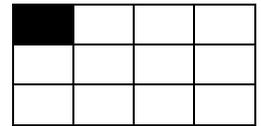


# 小学校活動例A『話すこと・聞くこと』の指導の充実

項目(ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム) 観点(①居場所づくり)



## 〔活動内容〕

国語科における「話すこと・聞くこと」の指導を充実させ、話し合いや発表する活動を行います。

ねらい	・自分の考えや気持ちを伝え合う力を高めることにより、互いの意見を聞き、認め合い、安心して学校生活を送ることができるようにする。【居場所】 ・互いの意見を聞き合い、意見を述べ合うなど、話し合い活動を進めることができる。【国語】		
対象	全学年（事例は第4学年）	教育課程上の位置付け	国語科（話すこと・聞くこと）
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
4月～5月	○どんな学級にしたいかを話し合う。 ・「話し合いのしかた」を学習した後、どんな学級にしたいか、司会の進行により互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合う。	□すべての子どもの意見をグループや全体で発表させ、一人一人の考えが学級づくりに欠かせないことを伝える。 □共通点や相違点を確認しながら、一人一人考え方に違いがあることは当然であることを理解させる。 ■相手の考えの共通点や相違点を理解し、進行に沿って話し合っている。【国】 ■安心して自分の考えを発表し、話し合っている。【居】	
9月～10月	○調べたことを発表する。 ・「調べて発表する」学習で、クラスのよいところや改めた方がよいところについて自分が調べたことを、理由や事例を挙げながら発表する。	□よりよい人間関係を形成するために考えさせたい題材を意図的に取り上げる。 ■具体的な理由や事例を挙げ、筋道を立て分かりやすく発表している。【国】 ■互いの発表を聞き、質問や感想を述べ合う中で、自分が認められていると感じている。【居】	

## 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 言語はコミュニケーションや感情の基盤であり、中でも国語科の「話す能力・聞く能力」は、どの発達の段階においても、すべての子どもが毎日用いる言語に関する力であることから、国語科の学習を通して、「話す能力・聞く能力」を系統的に身に付けられるよう指導します。
- 国語科で身に付けた力を、各教科等で活用することで、一人一人の思いや考えを表出させることができ、さらにその思いや考えを認め合うことで、一人一人に安心感や学級、学校への所属感を高めます。

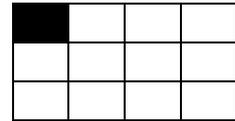
## 【関連する活動】

- ・話し合い活動の充実（各教科等）
- ・活動例C「話し合いのルールなどの掲示」（特別活動）
- ・活動例D「教育相談の手法を取り入れた学級づくり」（特別活動） など

※国語科の学習を通して児童に身に付いた「話す・聞く」能力を、他の教科等の学習や活動で活用できるよう、児童自らが話し合いのルールをつくる活動や支え合って話し合いを進める活動と関連を図ります。

# 小学校活動例A②「ユニバーサルデザインの視点の活用」

項目 (ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム) 観点 (①居場所づくり)



## 【活動内容】

児童一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援を学級づくりや授業づくりに生かします。

ねらい ・学習や活動の流れの見通しをもち、落ち着いて学級で学習や生活ができるようにする。【居場所】			
対象	全学年（事例は第5学年）	教育課程上の位置付け	（各教科等）
指導者	学級担任、TT担当教諭		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
4月～	<p>【基本的な学習過程の確立】</p> <p>○学習課題を提示する。</p> <p>○児童が試行錯誤をしながら解決できるような課題を提示する。</p> <p>○黒板に学習や活動の流れを示し、今、取り組んでいる段階が視覚的に分かるようにする。</p> <p>○学習や活動の始まりと終わりを、「ここまで取り組んだら終了」などと明確に伝える。</p> <p>○学習や活動の手掛かりとなるよう、「教科書の〇〇ページ」などと言葉を掛けたり、黒板に活動のポイントを提示したりして示す。</p>	<p>□児童が学習の見通しをもつことができるよう、学習する内容をおおまかに示す。</p> <p>□課題を、最初は短時間で達成できる基礎的な内容や量とし、少しずつ複雑な課題に取り組めるよう工夫する。</p> <p>□普段から間違いや失敗が許容されるような学級風土を醸成する。</p> <p>□黒板に学習課題→㊦(課)、問題→㊧(問)、自分の考え→㊨、友達の考え→㊩(友)、まとめ→㊪(要) などと示す。</p> <p>※学年や担任が替わっても、継続した取組となるよう、学校全体で共通した約束事する。</p> <p>□活動の途中で、机間指導を行い、取組状況を確認し、頑張りを認めほめたり、必要な助言を行ったりするなど、こまめに言葉掛けを行う。</p> <p>□児童の参考となるような取組を教師が紹介し、学級全体で共有できるようにする。</p> <p>■これが終わったら次はこれを行うなど、見通しをもち、落ち着いて学習や活動に取り組んでいる。【居】</p>	
5月～	<p>○スモールステップを設定し、活動の手順を分かりやすく伝える。</p> <p>○活動の手順を簡単な文で整理して示したり、絵に表して視覚的に理解できるように示したりして、考えやすいよう手掛かりを示す。</p>	<p>□段階を追って取り組むことで、児童にできたこと、分かったことを実感させるようにする。</p> <p>□学んだことや家庭学習で確認したことを意図的に活用することにより、児童が自分の努力の過程や成長の足跡を実感できるようにする。</p> <p>■難しい問題や課題に対しても、見通しをもちながら安心して取り組んでいる。【居】</p>	

・とても上手にノートが書けているね。  
・なるほど、そんな考え方もできるよね。  
・友達のことまで考えて行動できるのが君のよいところだね。

・この問題はどこかで勉強したね。  
・どのような解き方だったかな。  
・そうだね、そのやり方を使うと解くことができるね。

※本事例は、特定の授業ではなく、全ての授業において、教師が行う工夫や配慮について、教師の立場から示しています。

## 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 「文章題を解くこと」や「答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くこと」が難しく、学習に集中することに努力を要する児童に対して、本事例のように、児童一人一人にきめ細かな指導を行うことにより、安心感や学級、学校への所属感を高めることができるようになります。
- 学級のすべての児童の居場所づくりにつながるために、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援のノウハウを通常学級の授業づくりに生かすなど、通常の学級と特別支援学級を担当している教師が授業を参観し合ったり、協働して授業づくりを行ったりする取組を進めます。

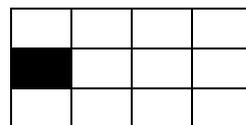
## 【関連する活動】

- ・活動例A「『話すこと・聞くこと』の指導の充実」（国語科）
- ・活動例C「話し合いのルールなどの掲示」（特別活動）
- ・活動例D「教育相談の手法を取り入れた学級づくり」（特別活動） など

※日々の授業や学級経営の中でユニバーサルデザインの視点を生かした取組ができるよう、国語科の「話すこと・聞くこと」の指導能力や児童自らが話し合いのルールをつくる活動、支え合って話し合いを進める活動と関連を図ります。

## 小学校活動例B 『なかよし集会』の指導の充実

項目 (ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム) 観点 (②絆づくり)



### 【活動内容】

全学年で楽しむことができるレクリエーションを異年齢集団の活動で行います。

ねらい (高学年)・上級生として自分に与えられた役割を果たすことにより自己有用感を高めることができるようにする。【絆】  
 ・低学年や中学年への思いやりの気持ちをもち、集会のねらいを理解し、協力して活動に取り組もうとする態度を育てる。【特】  
 (低・中学年)・高学年とのかかわりを通して、人間関係を形成することができるようにする。【絆】  
 ・高学年に信頼の気持ちをもち、積極的に参加する態度を育てる。【特別活動】

対象	全学年 (事例は高学年)	教育課程上の位置付け	特別活動 (児童会活動)
指導者	児童会担当及び各学級担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
5月	○児童会役員を中心にレクリエーションの内容を考え、準備を進める。 ・学級からレクリエーションの内容を募集する。 ・募集した内容から、みんなで楽しめるゲーム等を決定する。 ・「児童会だより」でルール等を知らせる。	□すべての学年が楽しめる内容となるよう考えさせる。 □「児童会だより」は、図説や写真を入れるなどして、低学年でも理解できるよう配慮する。 ■全学年の児童が楽しめるよう、それぞれのよさを生かせる方法を考えている。【特】 ■すべての学年の児童のよさを生かすため、果たすべき役割を考えている。【絆】	
6月	(なかよし集会) ・高学年が中心となり、ゲーム等の内容を全員に分かりやすく説明する。 ・アイスブレイクを行う。 ・ゲームを行う。	□ルールが理解できていない児童、異年齢で構成するグループになじめない児童がいないか確認させる。 □グループ内で自己紹介を行うなど、グループ内の児童同士が親しくなれるよう、進行を考えさせる。 ■友だちや他の学年の児童と協力して取り組んでいる。【特】 ■他の学年の児童と話したり、楽しく遊んだりしている。【絆】	
	○振り返りと反省をする。 ・アンケートを集計する。 ・全校に知らせたい内容を「児童会だより」で知らせる。	□アンケート結果だけを記載するのではなく、今後もみんなで仲良く学校生活を送れるようにするための記事を入れるなどの工夫をさせる。 ■(高) 集会の準備から当日までの取組で自分の役割を果たしている。【絆】	

レクリエーション後のアンケートの例 (低・中学年用)

1 レクリエーションで、たのしかったことはなんですか。

2 おにいさんやおねえさんとなかよくできましたか。

(高学年用)

1 レクリエーションで、楽しかったことは何ですか。

2 みんなが楽しめるようにがんばったこと、工夫したことはどのようなことですか。

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 「絆づくり」をねらいとしていることから、児童が主体的に活動できる場を設定し、指導・支援を行います。
- 本事例は、6月に位置付けられており、年度の早い段階で異年齢によるグループの人間関係を築き、運動会や学芸会などその後の学校生活をより充実したものにできるよう指導します。
- 一年間を通じて、運動会 (全校リレー) や清掃活動など1年生と6年生がペアを組んで様々な活動を行います。
- 全校一斉での実施が難しい場合は、ペアを組む学年や学級ごとに実施します。

### 【関連する活動】

- ・異学年交流 (学校行事)
- ・信頼友情 (2-(3))、創意工夫 (1-(5)) について考える (道徳の時間)
- ・活動例L「いじめゼロの木」(放課後の活動) など

※児童が集会での取組を振り返り、よりよい活動にしようと取り組むことができるよう、いじめゼロの木の展示の活動と関連を図ります。

## 小学校活動例C「話し合いのルールなどの掲示」

項目 (ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム) 観点 (③環境づくり)


### 〔活動内容〕

児童の意見を取り入れて作成した学級活動における話し合いのルールを掲示します。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いのルールを身に付け、互いを認め合い、安心して発言できる雰囲気を高める。【環境】</li> <li>よりよい学級づくりに向けたルールづくりについて、協力し合って話し合い活動を進めようとする態度を育む。【特別活動】</li> </ul>		
対象	全学年（事例は第4学年）	教育課程上の位置付け	特別活動（学級活動(1)ア）
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級の現状を確認する。</li> <li>○確認したことをまとめ、話し合いに向けた準備をする。</li> <li>・「学級目安箱」の意見も参考にします。</li> <li>○みんなが気持ちよく自分の意見を発言するために必要なルールは何か考える。</li> <li>・これまでの経験から、発表中や発表後に言われて嫌だったこと、うれしかったことを出し合う。</li> <li>○出された意見から項目を決め、話し合いのルールを決める。</li> <li>○決定したことをポスターにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童から考えが出ないときには、具体例を挙げ、これまでの生活を振り返らせる。</li> <li>□課題ばかりを示すのではなく、学級をよりよくするためという視点について助言する。</li> <li>□国語科の「話すこと、聞くこと」の内容と関連させられる部分について、教師が助言する。</li> <li>□全員が安心して意見を述べるためのルールづくりであることを確認する。</li> <li>□友達の考えのよいところを見付けるようにする。</li> <li>■全員が安心して発言できる学級とするための話し合いのルールを協力して考えている。【特】</li> <li>■掲示した話し合いのルールを意識するなど、落ち着いて学習するためのきまりを守ろうとしている。【環】</li> </ul>	

### 掲示物の例

「4年〇組 発表大好き！話し合いのルール」 ◎いつもがんばろう ○気をつけよう	
話すとき	聞くとき
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎相手を見て話そう</li> <li>◎ていねいな言葉で話そう</li> <li>○リズムに気を付けて話そう</li> <li>○声の大きさに気を付けて話そう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎相手の話を気を付けて聞こう</li> <li>◎分からないことは質問しよう</li> <li>○感じたことや考えたことを伝えよう</li> <li>○自分のことや考えと比べながら聞こう</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">                 みんなの意見が活かされるクラスを目指そう！             </div>	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 掲示物を作成した後は、児童が自分たちで決めたルールを守ろうとしている姿を、積極的に認めることで意欲を継続させるようにします。
- 学級経営の見直しと関連させ、自分たちで決めたルールが守られているかどうか、追加すべき点などがないか、年度の間での反省を行い、改善を図るようにします。
- ルールの決定の際には、学校全体のルールを基本に他の学年との連携を図ります。

### 【関連する活動】

- ・信頼友情（2-（3））、寛容（2-（4））について考える（道徳の時間）
- ・活動例A『「話すこと・聞くこと」の指導の充実』（国語科） など

※児童自らが話し合いのルールをつくり、守っていくことができるよう、国語科の「話すこと・聞くこと」の指導と関連を図ります。

# 小学校活動例D「教育相談の手法を取り入れた学級づくり」

項目 (イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点 (①居場所づくり)


## 〔活動内容〕

学級活動において意欲的に活動に取り組めるよう、教育相談の手法の一つである、構成的グループエンカウンター<sup>※</sup>の活動を取り入れます。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いや集会活動に児童が安心して参加できるようにする。【居場所】</li> <li>・(学級の目標を決めよう) 学級目標を全員で決定し、目標を達成するための方法や手段などを考え、実践しようとする態度を育む。【特別活動】</li> <li>・(思い出に残る学芸会にしよう) 小学校生活最後の学芸会に向け、役割を分担し、役割と責任を果たしながら協力して実践しようとする態度を育む。【特別活動】</li> </ul>								
対象	第6学年	教育課程上の位置付け	特別活動(学級活動(1)イ)						
指導者	学級担任								
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等	■主な評価						
4月	<p>○学級の目標を決めよう 学級会前の活動「無人島SOS」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを読んで、自分が必要と考えるものを選び順位と理由を記入する。 ※ワークシートには、無人島で生き抜くために水と食料以外に必要と思われるものを書いてある。</li> <li>・グループで話し合って意見をまとめる。</li> <li>・グループの話し合い後、もう一度考えて順位をつける。</li> <li>・最後に気付いたことや感じたことを発表する。</li> </ul>	<p>□全員に自分の考えを書かせて、全員の意見を聞いて目標を決めさせる。</p>	<p>■楽しい学級をつくるため、考えをまとめる話し合いの進め方を理解している。【特】</p> <p>■安心して自分の考えを述べている。【居】</p>						
	<p>学級会を行う前に「友だちの多様な考え方を知り、お互いを認め合える人間関係を築く」「自分の考えを主張する」ことをねらいとします。</p>								
10月	<p>○思い出に残る学芸会にしよう 学芸会前の活動「ブレンストーミング」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・割り箸がたくさんあったら何をつくるか、アイデアをたくさん書く。</li> <li>・グループで発表する。 ※「できない」「だめだ」など否定的な意見を言わない。</li> <li>・グループで出たアイデアの数と内容を発表する。</li> <li>・最後に驚いたアイデアやアイデアを活用してもらったときの気持ちを発表する。</li> </ul>	<p>□それぞれの違いやよさを生かして活動するようにさせる。</p>	<p>「いいとこさがしカード」 名前 OOOO</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>いいところ</th> <th>シール</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	いいところ	シール				
いいところ	シール								
※学芸会を10月中旬に実施	<p>学芸会後の活動「いいとこさがし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の名前をカードに記入し他のグループと交換する。</li> <li>・グループで相談して一人のカードにいいところを3つ以上書く。</li> <li>・違うグループと交換し、一人のカードに2つ以上付け足す。</li> <li>・全員のカードを並べ、カードを見て、なるほどと思ったところにシールを貼る。</li> <li>・最後に自分のカードを見て感じたことを発表する。</li> </ul>	<p>学芸会の取組の開始前に「抵抗感なく発言できる受容的な学級の雰囲気をつくる」ことをねらいとします。</p>	<p>学芸会後に「見過ごされがちな『いいこと』を探し、生活に喜びを見出す」「他者に受容される体験を通して事故肯定感を高める」ことをねらいとします。</p>						
	<p>※構成的グループエンカウンター<sup>※</sup>の内容については、「構成的グループエンカウンター事典 國分康孝 國分久子 図書文化」から作成</p>	<p>■楽しい学芸会をつくるため、友だちと協力して取り組んでいる。【特】</p> <p>■自分が認められていることを感じている。【居】</p>							

※構成的グループエンカウンター<sup>※</sup>の活動の評価は、シェアリングの様子を教師が見取りを行い、指導に生かします。

## 〔本活動を行うに当たっての留意点等〕

- 構成的グループエンカウンター<sup>※</sup>は児童の実態に併せて実施し、参加を無理強いしません。
- 教育相談の手法はソーシャルスキルトレーニングやピア・サポート活動などもあり、活用する際には、実施するねらいを明確にし、校内研修等で教員間の理解を図った上で、計画的に実施します。また、各教科等で取り入れる場合には、それぞれの手法の特質を生かして各教科等のねらいを達成することが大切であり、実施すること自体がねらいとならないようにします。
- 「居場所づくり」をねらいとしたものであり、児童が身に付けたスキルを生かして「絆づくり」に取り組む場を設定し、指導・支援を行います。

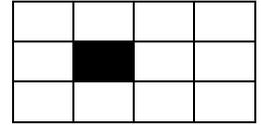
## 〔関連する活動〕

- ・信頼友情(2-(3))、思いやり(2-(2))について考える(道徳の時間)
- ・学級や学校の生活の充実に関する活動や運動会など各種行事(特別活動)
- ・活動例A「『話すこと・聞くこと』の指導の充実」(国語科)
- ・活動例E「〇〇町いじめゼロ集会への参加」(特別活動) など

※児童が支え合っ話し合いを進めていけるよう、国語科の「話すこと・聞くこと」の指導や児童が他の学校の取組を参考に主体的に取組を進める活動と関連を図ります。

## 小学校活動例E 「〇〇町いじめゼロ集会への参加」

項目(イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点(②絆づくり)



### 【活動内容】

児童会を中心に全校でいじめゼロ運動を行い、その取組内容について「〇〇町いじめゼロ集会」で発表・交流します。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童の「いじめをしない、させない」という意識を高め、互いの違いを認め合い協力して学校生活を送ることができるようにする。【絆】</li> <li>・いじめのない楽しく豊かな学校生活をつくるための方法について考え、判断し、実践しようとする態度を育む。【特別活動】</li> </ul>		
対象	全学年（事例は第6学年）	教育課程上の位置付け	特別活動（児童会活動）
指導者	全教職員		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
6月～	○児童会役員が中心となって「全校いじめゼロ運動」の取組の内容を考え、準備を進める。 ・全校児童からアイデアを募集する。	□自発的な思いや行動を大切に、児童会主体で内容を考えさせ、やらされ感を感じさせないように工夫する。 □児童会役員だけではなく、多くの児童からアイデアを広く募集し、全員参加の活動となるよう工夫させる。 ■楽しく豊かな学校生活をつくるために、いじめ問題を解決する方法について考えている。【特】	
7月	○全校いじめゼロ運動を実行する。 ・あいさつ運動、異年齢での交流などを行う。	□昼の校内放送などを使い、定期的に取り組内容を交流できるようにする。 ■楽しく豊かな学校生活をつくるために、協力して取り組んでいる。【特】	
8月	○児童会代表が「〇〇町いじめゼロ集会」で取組を発表する。 ・他校の優れた取組をメモして持ち帰る。 ○全校集会等で、児童会代表が「〇〇町いじめゼロ集会」の報告を行う。	□自校の成果をまとめ、発表することができるように指導する。 □他校の優れた取組を参考に自校の取組を充実するように働き掛ける。 □自校の取組内容を発表した際の反応や質問内容を発表させる。 □どの取組を充実させていくかを話し合うなどして、教師の押し付けにならないように配慮する。	
9月	○児童会役員が主体となり、他校の優れた取組を参考に自校の取組を充実させ「全校いじめゼロ運動Ⅱ」を実行する。 ・(例)いじめ防止の標語を募集する。 ○「いじめゼロ運動Ⅱ」の取組成果を検証し、成果を発表する。	■楽しく豊かな学校生活をつくるための意見をまとめ、協力して実践している。【特】 ■自分の役割を理解し、他と共同して意欲的に運動に参加している。【絆】 □運動期間が終わっても、継続的にいじめゼロを意識して行動できるように働き掛ける。	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 「絆づくり」をねらいとしていることから、児童が主体的に活動できる場を設定し、指導・支援を行います。
- 「全校いじめゼロ運動」の企画や運営に当たっては、児童が主体的に活動し、自ら振り返りの活動を行うなどして、成果を実感することができるよう工夫します。
- 全町規模での集会の実施が難しい場合は、中学校区の児童会・生徒会代表による集会を実施します。

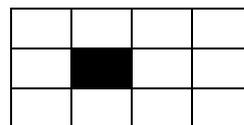
### 【関連する活動】

- ・話し合い活動の充実（各教科）
- ・思いやり（2-（2））、信頼友情（2-（3））について考える（道徳の時間）
- ・活動例D「教育相談の手法を取り入れた学級づくり」（特別活動）
- ・活動例F「いじめ防止の標語作成と掲示」（国語科・特別活動） など

※児童が他の学校の取組を参考に主体的に運動を進めることができるよう、児童が支え合って話し合いを進める活動や標語やルールを作成し掲示する活動と関連を図ります。

## 小学校活動例E②「いいところ探しプロジェクト」

項目(イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点(②絆づくり)



### 【活動内容】

児童会の企画・運営で全校児童が互いのよさを認め合うことのできるレクリエーションを行います。

ねらい	(高学年)・上級生としての役割を自覚し、果たすことにより、自己有用感を高める。【絆】 ・楽しく豊かな学校生活を送るため、低学年や中学年への思いやりの気持ちを持ち、集会のねらいに基づいた内容を考え、学校生活を充実しようとする態度を育てる。【特別活動】 (全学年)・温かい雰囲気や楽しい集会を通して、互いのよさを認め合う態度を育てる。【絆】		
対象	全学年(事例は高学年)	教育課程上の位置付け	特別活動(児童会活動)及び(放課後の活動)
指導者	児童会担当及び各学級担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
6月～7月	○児童会書記局が、「学級自慢大会」を企画・運営する。 ・学級から自慢できる内容を募集する。 ・全校集会で、各学級のよいところを発表してもらう。 ・発表の様子や各学級のよさを、児童会新聞などにまとめ、掲示する。	□発表に対して拍手を送るなど、温かい雰囲気づくりに努めるようにさせる。 □学級のよさをどのように生かしていくのか、よさを守るためにどのような工夫に取り組むのかについても発表させる。 □「学級自慢大会」の内容から「いいところ探しプロジェクト」の取組につながるようまとめを工夫させる。 ■楽しく豊かな学校生活をつくるため、協力して活動に取り組んでいる。【特】	
7月	「いいところ探しプロジェクト」 ○図書委員会で「この本が面白いコンクール」を企画・運営する。 ・本を紹介するカードやポスターなどを児童から募集する。 ・作品は図書室に掲示する。	□各学年の部を設けるなど、低学年にも自己有用感をもたせるよう、運営の仕方を工夫させる。 □日常や家庭学習、長期休業中の学習内容が生かせるよう工夫させる。 □学習に関係するコンクールで上位の児童が工夫している学習の取組例を紹介し、全校児童が努力することや工夫することの大切さに気付き、進んで取り組むようにする。 □回数や技だけでなく、チームワーク賞や努力賞なども設定し、全校児童が楽しめるよう工夫させる。 □学級、学年を越えたチーム編成を認めるなど、全校児童がより一層楽しめるよう工夫させる。 ■進んで協力し合い、支え合いながら取り組んでいる。【特】	
8月	○学習委員会で「漢字コンクール」「計算コンクール」を企画・運営する。 ・苦手な漢字や計算について事前に調べてコンクールの問題作りを行う。 ・朝の時間などに実施する。	■(高)自分や他の児童のがんばりに気付き、自己有用感を高めている。【絆】 □学校行事等を踏まえ、実施する回数や実施時期を決定する。	
11月	○体育委員会で「縄跳び選手権」を企画・運営する。 ・個人の部、団体の部で、出場者を募集する。 ・中休みなどに実施する。	北海道教育委員会では、「どさん子元気アップチャレンジ」を実施しています。 詳細は <a href="http://www.dokyojyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/genkiupchallenge25.htm">http://www.dokyojyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/genkiupchallenge25.htm</a> を参照	
12月	○まとめの集会を行う。 ・映像で振り返り、感想や気付いたことについてシェアリングする。	□できたことを自慢するだけではなく、それぞれが努力してきたことやよさを発揮してきたことを認め合うようにさせる。 ■自他のがんばりを認め合い、それぞれが活躍できる機会を設けようとしている。【絆】	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 本活動のねらいを周知徹底し、すべての児童が何らかの取組に参加できるようにプログラムを工夫させます。
- 「絆づくり」が中心となる活動であることから、児童の主体的な活動となるよう教師が適切な支援を行うようにするとともに、児童が互いのよさを素直に認めることができるよう工夫します。
- 他にも次のような活動が考えられます。
  - ・早口言葉大会、原稿早読みコンクール(放送委員会)
  - ・読書感想文コンテスト(図書委員会)
  - ・百人一首大会、辞書早引きバトル(学習委員会)
  - ・けんすいトーナメント(体育委員会)
- この活動を踏まえて、授業の中で、児童が自分の意見を自由に述べたり、互いの個性を認め合うことができたりするような場を意図的に位置付けます。

### 【関連する活動】

- ・活動例B『「なかよし集会」の指導の充実』(特別活動)
- ・個性の伸張(1-(5)・(6))、友情の大切さ(2-(3))、寛容の心(2-(4)・(5))について考える(道徳の時間) など

※いいところ探しプロジェクトでお互いのよさを認め合うことができるよう、なかよし集会の活動と関連を図ります。

## 小学校活動例 F 「いじめ防止の標語作成と掲示」

項目 (イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点 (③環境づくり)


### 〔活動内容〕

児童会が中心に、いじめ防止の標語を募集したり、校内に掲示したりするなど、「いじめゼロルール」を策定し、実施します。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止の標語の作成、校内への掲示により、「いじめをしない、させない」という意識を高める。【環境】</li> <li>表現の効果などについて確かめたり工夫したりしながら、標語を書くことができる。【国語】</li> <li>いじめのない楽しく豊かな学校生活をつくることへの関心を高め、積極的に活動に取り組もうとする態度を育む。【特別活動】</li> </ul>		
対象	全学年（事例は第5学年）	教育課程上の位置付け	国語科、特別活動（児童会活動）
指導者	全教職員、（学校のPTA 役員）		
時期	<input type="checkbox"/> 活動の概要 <input type="checkbox"/> 指導上の留意点等      ■ 主な評価		
10月	<input type="checkbox"/> 児童会役員が主体となり、「いじめゼロ標語コンクール」を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標語を書く前に、なぜいじめはいけないことなのかを各学級で話し合う。</li> </ul> <input type="checkbox"/> 国語科の時間に書いた標語を応募する。	<input type="checkbox"/> 国語科の詩の時間の後に「表現の技法を用いて標語を作る」学習を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 比喩やユーモア、省略、倒置、対句などの表現の工夫に気づき、自分の表現に用いている。【国】</li> <li>■ 楽しく豊かな学校生活をつくるために、いじめ問題に関心をもち、積極的に話し合っている。【特】</li> </ul>	
11月	<input type="checkbox"/> 教師とPTA 役員が集まり、標語コンクールの入選作品を決める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級から入選標語を1点決め、その中から学年最優秀標語1点、学校代表標語1点を決める。</li> <li>入選した標語は、始業式や全校集会で表彰を行う。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 審査要領や審査基準を定めるなど、公正に入選作品を選ぶことができるよう配慮する。	
12月	<input type="checkbox"/> 全校いじめゼロ標語作品展を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>入選した標語は、児童玄関などの日常的に目に入る場所に大きく印刷して掲示する。</li> <li>児童が書いた全標語を廊下などに掲示する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 参観日などと日程を合わせ保護者にも標語作品展を見せようとする。	
1月	<input type="checkbox"/> 代表委員会が標語を基に「〇〇小さいじめゼロルール」を策定し、実施する。 <p>ルールの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなにあいさつをしよう。</li> <li>困っていたら「大丈夫？」と声をかけよう。</li> <li>仲間外れをつくらない。</li> <li>頑張っている人を応援しよう。</li> <li>友だちがよくできていたら拍手をして「すごいね」と認めてあげよう。</li> <li>自分を信じて最後まで努力しよう。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 「いじめゼロルール」は、低学年児童にも分かりやすい言葉になるよう指導する。 <input type="checkbox"/> 「いじめゼロルール」を作成するだけでなく、ルールを具体的に進める取組について、代表委員会に提示する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 楽しく豊かな学校生活をつくるために、他の児童と協力し、いじめゼロルールを実践しようとしている。【特】</li> <li>■ いじめをなくすためのルールを意識し、ルールを守ろうと呼び掛けている。【環】</li> </ul>	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 標語を掲示する場所や時期について全職員の共通理解を図り、学校全体の取組とします。
- 「いじめゼロ標語コンクール」の企画と運営や「いじめゼロルール」の策定に当たっては、児童が主体的に活動し、成果を実感することができるよう配慮します。

### 【関連する活動】

- ・ 活動例 E 「〇〇町いじめゼロ集会への参加」（特別活動） など

※児童が主体的に標語やルールを考え、取組を進めることができるよう、他の学校の取組を参考に取組を充実する町のいじめゼロ集会と関連を図ります。

## 小学校活動例 F②「『ほっと』を活用した教育相談活動」

項目 (イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点 (③環境づくり)


### 〔活動内容〕

「ほっと」の結果分析に基づき、教育相談を実施するとともに、ピア・サポートの手法を取り入れた取組を行うことで、相談しやすい環境づくりを進めます。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身のことや友人関係のことなどを安心して相談し合える環境を整え、落ち着いて学習や生活を送ることができるようにする。【環境】</li> <li>・楽しく豊かな学校生活をつくるため、他の児童と協力し合いながら積極的に活動に取り組む態度を育む。</li> </ul> <p>【特別活動】</p>		
対象	第6学年	教育課程上の位置付け	特別活動（児童会活動）
指導者	各学級担任及び児童会担当		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
6月	<p>○「ほっと」を実施し、結果分析を全教職員で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の結果と比較したり、男女別で比較したりするなどして、教育相談のポイントとピア・サポートで取り組む内容を検討する。</li> </ul>	<p>□児童の否定的な回答の多さや回答の振り幅の大きさなどに着目し、一人一人の状況を踏まえた教育相談を行う際のポイントと集団の状況を踏まえたピア・サポートの取組内容を確認する。</p> <p>□必要に応じて、いじめアンケートや生活アンケートの結果も併せて分析する。</p> <p>■周囲の様子をうかがったりすることなく、安心してアンケートに回答している。【環】</p>	
6～7月	<p>○教育相談を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後や休み時間を利用して実施する。</li> </ul>	<p>□学級担任だけでなく、必要に応じて養護教諭等、複数の教職員が相談を行う。</p> <p>□児童に自分自身の回答を振り返らせながら相談を進める必要がある場合には、アンケート等の結果を加工したものを資料として示しながら相談を進める。</p> <p>□相談しやすいよう相談場所や机・椅子の配置等に留意する。</p> <p>■自分の悩みや不安について相談している。【環】</p>	
7月	<p>○「ピア・サポート集会」を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に児童会役員で集会に向けたリハーサルを行う。</li> <li>・児童会役員が中心となり、自分たちが抱えている悩みを提示し、小グループで解決方法について話し合う。</li> </ul>	<p>□「ほっと」の分析結果と教育相談の結果から、多くの児童が抱えている悩みの中から、児童が自分たちで解決方法を考えることができるものを提示する。</p> <p>□話合いの目的は、正しい解決方法を見つけることではなく、お互いの考えを聞き合いながらよりよい解決方法を考えることであることを理解させる。</p> <p>■グループの話合いに自分から進んで参加している。【特】</p> <p>■他の児童との話合いを通じて、安心して落ち着いて話合える環境づくりの大切さに気付いている。【環】</p>	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 「ほっと」等の生活アンケート等の結果については、児童の状況に応じて、自分自身を振り返る資料として教育相談等で提示して活用します。
- 複数回実施した「ほっと」等の客観的データにより、児童の変容や取組の成果を検証し、改善を図ります。
- 中学校への引継ぎ資料の一つとして、「ほっと」等とその結果に基づく取組を整理して活用します。

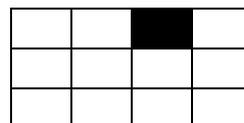
### 【関連する活動】

- ・活動例D「教育相談の手法を取り入れた学級づくり」（特別活動） など

※安心して自分の考えを伝えることができるよう、児童が支え合って話合いを進める活動と関連を図ります。

## 小学校活動例G「地域と触れ合う活動」

項目 (ウ 社会教育(家庭や地域と連携した体験活動)との関連を図ったプログラム) 観点 (①居場所づくり)



### 【活動内容】

生活科において、高齢者と一緒に植物の世話をしたり、高齢者から昔の遊びを学んだりするなどの交流をします。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者との交流を通して、人とかかわる喜びを実感することにより、自分が認められ、必要とされていることを感じることができる。【居場所】</li> <li>・身近な植物の栽培に関心を持ち、地域の高齢者に栽培の仕方を聞いて継続的に育てるとともに、高齢者とかわりながら昔の遊びについて調べ楽しむことができる。【生活】</li> </ul>		
対象	第2学年	教育課程上の位置付け	生活科2(3)(7)
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
5月	○地域の高齢者と学校園や農園への野菜の苗植え作業を通じて交流する。	□話し合っで決めた育てたい野菜の苗を植え、育ちの変化や様子に気付くことができるようにする。 ■高齢者との交流で安心して活動している。【居】	
6～7月	○高齢者と一緒に水やりや草取り、施肥を行い、交流する。	□苗の世話を通じた会話や触れ合いを大切にするようにする。 ■育てている苗の成長の状態に合わせて世話の仕方が変わること気付いている。【生】	
8月	○自分が育てた野菜の収穫の喜びや世話の様子を伝え合う。	■記録カードなどを見ながら育ちや変化の過程と世話の様子を振り返って伝えている。【生】	
	○育てた野菜の写真を感謝のカードと一緒に渡す。	□国語科の学習と関連付けながら、カードを書かせる。	
	○記録カードを次年度の2年生に育ててもらうため、1年生にプレゼントする。	□異年齢の交流活動を毎年連続して行うことで、学校の伝統にかかわっていること、人とかかわる喜び、自己存在感を味わわせる。	
9月	○昔の遊びについて調べ、実際に遊ぶ。	□地域に伝わる遊びを中心に取り上げる。 ■遊びのルールを工夫すると楽しく遊べるようになるという面白さとみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。【生】	
	○高齢者に「集会で昔の遊びについて教えてほしい」という内容の手紙を書く。	□国語科の学習と関連付けながら、手紙を書かせる。	
10月	○「昔の遊び集会」を開き、高齢者に昔の遊びについて教わる。	■楽しく遊ぶことに関心を持ち、招待した地域の高齢者と遊びの面白さについて伝え合おうとしている。【生】	
	○高齢者にお礼と学芸会の招待状を書く。	□高齢者に対して感謝の気持ちを込めて招待状を書かせる。	
11月	(学芸会)		
	○学芸会を参観した高齢者から感想を聞く。	□高齢者に感想を直接聞く機会を設定することが難しい場合は、手紙を書いてもらうようにする。 ■高齢者から自分が認められ、必要とされていることを感じている。【居】	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

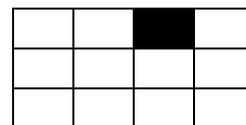
○「居場所づくり」が中心となる活動であることから、高齢者に児童の自己存在感を高める目的であることを説明し、児童に声を掛けたり、話を聞いてあげたりするなどの協力を依頼します。

### 【関連する活動】

- ・嬉しい言葉や手紙を書く学習（国語科）
- ・尊敬・感謝（2-（4））、思いやり・親切（2-（2））、動植物愛護（3-（2））について考える（道徳の時間）など

## 小学校活動例G②「スクールカウンセラーなどとの交流機会の充実」

項目 (ウ) 社会教育(家庭や地域と連携した体験活動)との関連を図ったプログラム 観点 (①居場所づくり)



### 〔活動内容〕

児童がスクールカウンセラーとかかわる機会を意図的に増やすことにより、児童がスクールカウンセラーなどの身近な大人に安心して相談できるようにします。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的にスクールカウンセラーと接する機会を増やすことで、困ったことがあったときに安心して相談できるようにする。【居場所】</li> <li>・スクールカウンセラーと学級担任や保護者との関係を密にすることで、いじめの未然防止や早期発見に連携して取り組み、児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。【居場所】</li> </ul>		
対象	全学年	教育課程上の位置付け	朝自習、休み時間、給食時間
指導者	学級担任、スクールカウンセラー（以下SC）、保護者		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学級で相談室に訪問する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級ごとに相談室を訪れ、どのような場所なのか、何ができるのか、できないのかを説明する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□SCの自己紹介や、相談室の利用の仕方について説明を行い、困ったことや心配なことがあるときには、いつでも相談できることを伝える。</li> <li>□保護者にも「相談室だより」等で周知する。</li> </ul>	
4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が相談室に入りやすい環境をSCの意見を取り入れて整備する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の配置や絵画の掲示の他、オセロやトランプ等のゲームコーナーや、折り紙やけん玉などの昔の遊びコーナーを設ける。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童が中休みや昼休みなどに、相談室に自由に入出りできるように、環境を整える。</li> <li>□相談室の開室日や開室時間について、児童に対しては相談室前や各階の掲示物に掲示したり、保護者に対しては相談室だより等で知らせたりする。</li> <li>□中休みや昼休みの相談に支障のない時間で、ゲーム・遊びコーナーで児童とSCと一緒に遊ぶ機会を設ける。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SCが給食時間に各学級を訪問する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学級をローテーションで訪問し、児童と一緒に食べてもらう。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□可能な限り児童と一緒に給食を食べながらコミュニケーションを深め、相談しやすい関係づくりを行う。</li> <li>□児童やSCの希望を踏まえ、訪問機会を多く設定する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SCが職員会議や校内研修に参加する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営交流会や、いじめ対策委員会等、学級や児童に関する職員会議等に参加してもらう。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□職員会議等で、相談室の利用状況や各学級を訪問した際の感想や気付いたことを報告してもらい、SCと教職員の情報共有を図り、連携した取組を進める。</li> </ul>	
5月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SCが本の読み聞かせに参加する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書や朝自習の時間などに、いじめの防止につながる本を紹介したり、絵本を読んだりしてもらう。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□保護者が行う読み聞かせにSCが参加する形で行い、児童だけでなく、保護者との信頼関係も築くようにする。</li> <li>□相談室に紹介した本を置き、中休みや昼休みに、児童が本を読んだり、SCと本について話をしたりできるようにする。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SCが「いじめについて考える集会(注1)」に参加する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・SCの他、保護者や地域の方、心の教育相談員等に参加してもらいそれぞれからお話してもらう。</li> </ul> </li> </ul>	<p>(注1)詳細は活動例H「いじめについて考える集会」を参照                      ■児童がSCや教職員に心を開き、安心して様々な話をしながら、教室や相談室で落ち着いて生活している。【居】</p>	

※本活動は、児童の相談状況を踏まえ、通年に渡り継続して行うことが考えられます。

中学校や高等学校でも、SCと生徒との関係を構築するため、授業等に積極的に参加してもらうよう依頼します。例えば、構成的グループエンカウンターなどグループワークのリーダーや授業のゲストティーチャーとして参加してもらったり、校内研修や保護者会の講師として生徒との関わり方について話してもらったりします。

### 〔本活動を行うに当たっての留意点等〕

- 「居場所づくり」が中心となる活動であることから、教師が主体となってスクールカウンセラーと連携し、各学校の実態に合わせて児童が気軽に相談できるよう、活動を推進します。
- スクールカウンセラーと学級担任の関係が密になるよう、職員室にもスクールカウンセラーの机を配置し、児童について情報交換ができるようにします。

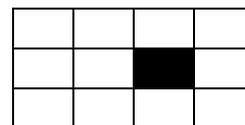
### 〔関連する活動〕

- ・活動例H「いじめについて考える集会」(特別活動)
- ・思いやり(2-2)や信頼友情(2-3)について考える(道徳の時間) など

※スクールカウンセラーとの関係を深めることができるよう、スクールカウンセラーに参加してもらういじめについて考える集会との関連を図ります。

## 小学校活動例H「いじめについて考える集会」

項目(ウ 社会教育(家庭や地域と連携した体験活動)との関連を図ったプログラム) 観点(②絆づくり)



### 〔活動内容〕

児童会を中心に、保護者や地域の人といじめ問題をテーマとして交流します。

ねらい ・児童に「いじめをしない、させない」という意識をもたせ、互いの違いを認め合うことができるようにする。【絆】  
 ・いじめのない学校生活づくりのため、諸問題を解決する方法について考え、判断し、協力して実践しようとする態度を育む。【特別活動】

対象	第3～6学年（事例は高学年）	教育課程上の位置付け	特別活動（児童会活動）
指導者	児童会担当及び各学級担任、（学校のPTA 役員）		
時期	○活動の概要		□指導上の留意点等 ■主な評価
4月	<p>○各学級でいじめについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で話し合った内容をまとめ、代表者が「いじめについて考える集会」で発表する。</li> </ul> <p>○「いじめについて考える集会」の準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年や学級で役割を分担する。</li> <li>保護者や地域の方と打合せする。</li> </ul>	<p>□いじめとはどんなことか、なぜ起こるのかについて自分の考えを書く場面と交流する場面を設定し、全員がいじめに対する考えをもつことができるようにする。</p> <p>■楽しい学校生活にするために、いじめを生まない、いじめの問題を解決する方法について考えている。【特】</p> <p>□児童が役割を分担することで協力して活動するよう工夫させる。</p> <p>■協力して準備を進めることで自分が役に立っていることを感じている。【絆】</p>	
5月	<p>○「いじめについて考える集会」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級の代表者が事前に学級で話し合った内容について発表する。</li> <li>いじめの事例をもとに、高学年の代表児童がロールプレイングを行う。</li> <li>保護者や地域の方、心の教育相談員、スクールカウンセラーなどを招き、それぞれの立場から、経験や発表やロールプレイングについての助言などを話してもらう。</li> </ul> <p>○各学級で集会の感想について交流し「いじめをしない、させない」ことを改めて確認する。</p>	<p>□児童の自発的な思いや行動を大切にしながら、低学年の児童も理解できるように工夫して、主体的に参加できるよう企画や準備を進めさせる。</p> <p>■自分の役割を理解し、互いの違いを認め合い、他とかがかわろうとしながら集会に参加している。【絆】</p> <p>□イラストや絵を用いて、中学年の児童も状況を理解できるように工夫させる。</p> <p>■楽しい学校生活をつくるために、協力して実践する意欲をもっている。【特】</p> <p>□感想を書かせるなどして、集会後のいじめに対するお互いの考えを交流できるようにする。</p> <p>□集会の事前と事後の感想を1枚の紙にまとめて書くなどして、児童の変容が分かるように工夫して評価を行い、その後の活動に生かす。</p>	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 「絆づくり」をねらいとしていることから、児童が主体的に活動できる場を設定し、指導・支援を行います。
- 「いじめについて考える集会」では、児童が発表や交流を通して自分の考えを深め、成果を実感できるように工夫します。
- 保護者代表や地域の人、心の教育相談員、スクールカウンセラーなどの外部の方の参加を依頼する際には、事前に児童会役員の児童とともに打合せを十分に行い、集会の目的や意図を理解し参加してもらいます。

### 【関連する活動】

- ・話し合い活動の充実（各教科）
- ・信頼友情（2-（3））、や思いやり（2-（2））について考える（道徳の時間）
- ・構成的グループエンカウンターを活用した活動（特別活動）など

# 小学校活動例Ⅰ「クリーン&グリーン運動」

項目(ウ 社会教育家庭や地域と連携した体験活動との関連を図ったプログラム) 観点(③環境づくり)


## 〔活動内容〕

地域の人々と一緒に花壇整備や清掃活動を行い、活動を通して感じた内容をポスターやメッセージにしてゴミのないきれいな環境づくりを呼びかけます。

ねらい ・友達や地域の人々と協力し、自分たちの生活環境を整備することにより、規範意識を醸成し、安心して落ち着いた学校をつくることのできるようにする。【環境】  
 ・ポイ捨てについて、感じたことや見たこと、伝えたいことの内容に合わせて掲示物を作成することができる。【図画工作】  
 ・よりよい地域づくりに貢献するため、地域の方と一緒に諸問題の解決に取り組もうとする態度を育む。

### 【特別活動】

対象	全学年(事例は第5学年)	教育課程上の位置付け	特別活動(児童会活動)、図画工作
指導者	全教職員		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
5月	○児童会が主体となり、地域の町内会の方々と一緒に校区内の花壇に花を植える「〇〇小グリーン運動」を実施する。	□通学路や普段使っている公園等の花壇を中心に実施し、近くにゴミが落ちていないか確認させ、次の「〇〇小グリーン運動」につなげる。 ■落ち着いた学校・地域づくりのため、地域の方々と協力して取り組んでいる。【特】	
6月	○児童会が主体となり、学校内の隅々まできれいに「〇〇小グリーン運動」を実施する。	□校舎内からスタートし、学校の敷地内の清掃活動を実施する。 □活動前後の様子を写真で比較するなどして、取組の成果を実感させ今後の活動への意欲を高める。 ■落ち着いた学校生活を送るために、他の児童と協力しながら、進んで取り組んでいる。【環】	
7月	○児童会が主体となり、地域の町内会の方々と一緒に校区内のゴミを拾う「〇〇小グリーン運動」を行う。 ・集団下校訓練の際に通学路沿いの道路や公園で実施する。	□清掃場所は児童が「グリーン運動」で確認した通学路や普段使っている公園の様子や地域の方から話しを聞いて、ゴミ拾いが必要な場所について考えさせるようにする。 ■児童が考えた活動を地域の方と協力して取り組むことで、落ち着いた環境づくりの大切さに気付いている。【環】	
8月	○校舎内や校区内に掲示するポスターを作成し、校内に掲示する。 ・図画工作の時間に「〇〇小グリーン運動」を通して伝えたい内容を表すポスターを作成する。	□参観日などと日程を合わせ、保護者にも作品を見てもらうようにする。 □町内のスーパー、病院、公共機関などにポスターの掲示を依頼する。 ■表したい感じや用途に合わせて、ポスターの表し方を工夫している。【図】	
9月	○「〇〇小グリーン運動」で育てた花の種を収穫して封筒に入れ、ゴミのポイ捨て禁止を呼び掛けながら配付する。 ・封筒にポイ捨て禁止のメッセージを書く。 ○振り返りと反省をする。	□花を地域の催事等のイベントで配布する。 ■安心して落ち着いて学校生活を送ることができる環境をつくることを進んで呼び掛けている。【環】  □「クリーン&グリーン運動」を通じた感想を書かせる。	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 清掃活動は学校の教室や廊下などの身近な場所から始め、地域の方から話を聞くなどして、徐々に校区内全体へと視野を広げさせるようにします。
- 児童の自己指導能力や自己有用感を高めるため、「クリーン&グリーン運動」の意義を児童一人一人に考えさせるとともに、児童会に説明や運営を行わせ、環境づくりを進める取組を自分のこととして捉えさせるようにします。
- 「グリーン運動」を「人権の花運動」と関連付けて実施することを検討します。

### 【関連する活動】

- ・信頼友情(2-(3))、思いやり(2-(2))について考える(道徳の時間)
- ・活動例I「いじめゼロの木」(放課後の活動)
- ・活動例J「道徳教育の充実」(道徳の時間等) など

※児童が緑化・清掃活動を振り返り、考えたことを呼び掛けることができるよう、友情や思いやりについて考える道徳教育やいじめゼロの木を展示する活動と関連を図ります。

# 小学校活動例 J 「道徳教育の充実」

項目 (エ (その他) 道徳教育・人権教育・情報教育等との関連を図ったプログラム) 観点 (①居場所づくり)


## 〔活動内容〕

道徳の時間において、各教科等と関連を図りながら、友情や思いやりの心などについての理解を深めます。

ねらい ・相手の考えを理解しながら、考えを書いたり、話し合ったりすることにより、集団で自分が必要にされていることに気づき、自己存在感や自尊感情を高めることができるようにする。【居場所】  
 ・思いやりの心を持ち、相手の立場になって親切な行動をとろうとする心情を育てる。2-2)「親切」  
 ・友達を大切に、互いに学び合おうとする意欲を育てる。2-3)「友情」  
 ・きまりを守り、相手の立場を考え行動しようとする態度を育てる。4-1)「規則尊重・公德心・権利義務」【道徳】

学校の道徳教育の重点目標といじめの未然防止の観点の関連を図る場合、  
 小学校高学年では例えば、1-6)「個性の伸張」、2-1)「礼儀」、2-2)「親切」、2-3)「友情」、2-4)「謙虚・寛容」、2-5)「尊敬・感謝」、3-1)「生命尊重」、4-1)「規則尊重・公德心・権利義務」、4-2)「公正公平・正義」などから、学校の実態に応じて2～3の項目を重点とすることが考えられます。

対象	第5学年	教育課程上の位置付け	道徳の時間及び関連する各教科等
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等	■主な評価
4月	(音楽) ○歌詞の内容を考え、自分のことを想起しながら「Believe」を歌う。	□歌詞と日常生活との関連付けが図りやすいようワークシートを活用して、友情の大切さについての思いを込めて歌うよう指導する。	
	関連	※教科等の活動や指導上の留意点等については、いじめの未然防止に最もかかわりの深いものを記述しています。	
9月	(道徳の時間) 2-3)「友情」 資料名「友の命」(民間の教材会社刊行の道徳副読本の読み物資料) ○互いを信頼し合う友情の大切さについて考える。	□導入で自分にとっての友だちとほかがを「私たちの道徳」のP73に記入させる。 □友だちがいてよかったと感じたことについて交流させる。 ■友だちとのよりよい関係について自分とのかかわりで考えている。【道】 ■お互いが必要とされていることを感じている。【居】	
	関連	□体が不自由な人ややさしい街はどんな街が話し合わせる。 □終末で親切にしたいけれども行動できないことの原因を「私たちの道徳」のP61に記入させる。 ■思いやりのある街にするための考えを記入している。【道】 ■自分が行ったことが認められることを感じている。【居】	
1月	(特別活動(児童会活動)「クリーン&グリーン運動」(活動例1)) ○第3学年と一緒に花壇づくりを計画し、実施する。	□下級生に対して思いやりの気持ちを持ち、安心して活動できる工夫をし、一緒によりよく活動するよう指導する。	
	関連	□自分たちと自然環境との結び付きについて資料を収集・選択し、公害から健康や生活環境を守ること、国土の環境の大切さを説明するよう指導する。	
1月	(社会) ○環境を保全するために自分のできることをメッセージカードにまとめる。	□きまりは何のためにあり、なぜ、きまりが必要なのか、話し合わせる。 □終末できまりやルールを守ることが大切な理由を「私たちの道徳」のP123に記入させる。 ■権利と義務について互いの考えを聞きながら考えている。【道】 ■安心して落ち着いて活動できることの大切さを感じている。【居】	
	関連	□きまりは何のために、「私たちの道徳」のP123に記入させる。 ■権利と義務について互いの考えを聞きながら考えている。【道】 ■安心して落ち着いて活動できることの大切さを感じている。【居】	

## 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 本活動例で示している道徳の時間は1単位時間ですが、道徳の重点目標にかかわる内容項目については、複数時間を設定して学習を深めます。
- 各教科等で学んだことの関連を図るため、それぞれの学習後に道徳の時間を位置付けます。
- 道徳の時間においては、児童に「思いやりの心を持ちなさい」、「明日からどのきまりを守りますか」といった価値を押し付けたり、決意を表明させたりしないよう留意します。

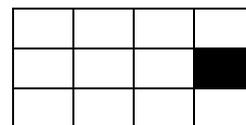
## 【関連する活動】

- ・歌唱による表現の学習 (音楽)
- ・環境の保全に向けた学習 (社会)
- ・活動例 I 「クリーン&グリーン運動」(特別活動・図画工作) など

※児童が友情や思いやりについて考え、理解を深めることができるよう、地域の方と一緒に取り組んだ緑化・清掃活動を振り返り考えたことを呼び掛ける活動と関連を図ります。

## 小学校活動例K「なくそうネットトラブル」

項目(エ (その他) 道徳教育・人権教育・情報モラル教育等との関連を図ったプログラム) 観点(②絆づくり)



### 〔活動内容〕

小学生が中学生と一緒にネットトラブルについて話し合い、防止する方法を考えます。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの利用状況等の違いを認め合いながら、協力してトラブルをなくしていく取組を進めることができるようにする。【絆】</li> <li>ネットトラブルを防止するための自分にあった方法を考え実践しようとする態度を育む。【特別活動】</li> </ul>		
対象	第6学年(近隣の中学生)	教育課程上の位置付け	特別活動(学級活動(2)ウ)
指導者	生徒指導担当教師、学級担任(中学校の学級担任)		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
5月	○児童の携帯電話等の情報通信機器の利用状況や使い方について確認する。	□保護者の協力を得て、児童の情報通信機器の利用状況や家庭でのルールについて情報提供してもらう。	
6月	<p>○中学生に参加してもらい、ネットトラブルについての学習会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットの利用の仕方やトラブルの内容、いじめにつながることにについて話を聞き、防ぐためにはどのようなことに注意するとよいかを話し合う。</li> </ul> <p>○家庭でのネット利用のルールづくりが大切であることから、保護者にも参加してもらう。</p> <p>○いじめやネットトラブルについての学習を踏まえ、「いじめ根絶」「ネットトラブル根絶」に向けたメッセージを一人一人で作成し、全員でまとめる。</p>	<p>□中学生には、携帯電話等の利用経験が少ない小学生にもネットを利用することのよさや困ることが理解できるよう実例を挙げながら説明してもらう。</p> <p>□インターネットを通じて本人が気付いていない中で悪口を言いふらして他人を傷付けることもいじめであることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ネット利用による生活の充実や問題に関心を持ち、自分に合った方法を考えている。【特】</li> <li>■ネットを利用する考え方の違いを認め合いながら話し合っている。【絆】</li> </ul> <p>□小・中学生の混合グループでネット利用の状況が異なる相手にも伝わるようなメッセージを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■協力してメッセージの作成に取り組んでいる。【特】</li> <li>■メッセージを友達や中学生と協力して作成し、多くの人に伝えようとしている。【絆】</li> </ul>	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 「絆づくり」をねらいとしていることから、児童が主体的に活動できる場を設定し、指導・支援を行います。
- インターネットを多く利用した経験のある中学生と一緒に考えることで、ネットトラブルを身近なものに感じ、自分のこととして考えることができるよう指導します。
- 年度の早い時期の活動のため、中学1年生については、説明の内容を考えるなどの準備を前年度の小学校在学中に進めます。
- 各学校の担当教師は事前の打合せを十分に行うとともに、事前にネットの利用状況等について、アンケート等を活用して把握し、互いに情報提供し指導に生かすようにします。また、引継ぎの資料としても活用します。
- 中学生に参加してもらう他、「ネットマナーのしおり」(高等学校活動例K)等の高校生が作成したネット利用の実態がわかる資料を活用して説明する方法も検討します。

### 【関連する活動】

- ・話し合い活動の充実(各教科等)
- ・情報ネットワークの有効な活用や情報を発信する側の責任について考える。(社会科第5学年)
- ・規則の尊重(4-(1))について考える(道徳の時間) など

# 小学校活動例Ⅱ 「いじめゼロの木」

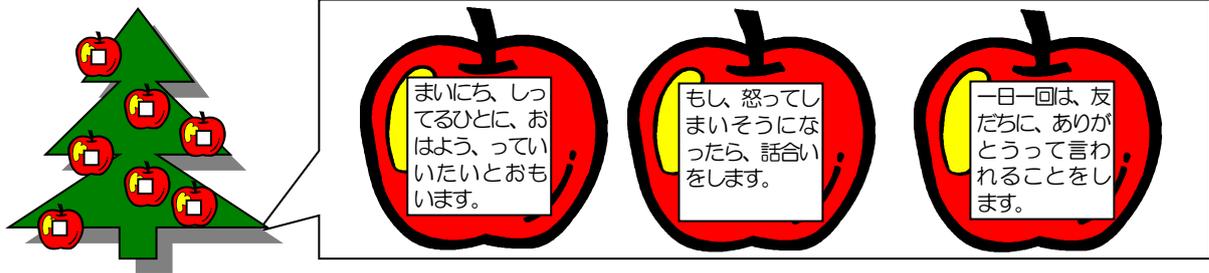
項目 (Ⅰ (その他) 道徳教育・人権教育・情報教育等との関連を図ったびびり) 観点 (③環境づくり)


## 〔活動内容〕

いじめの未然防止に関する活動で作成したものや感想を校内に継続的に掲示します。

ねらい ・いじめの未然防止に関して作成したものや感想を継続的に掲示し、日常的に振り返ることで、学校全体のいじめを「しない」「させない」「ゆるさない」という意識を高める。【環境】			
対象	全学年（事例は高学年）	教育課程上の位置付け	（放課後の活動）
指導者	全教職員		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
4月～	○いじめの未然防止にかかわる活動で作成したものや感想などをまとめ、展示コーナーに掲示する。	□いじめの未然防止にかかわる活動を確認し、各学年のどの活動のものを掲示するかを計画する。 □児童玄関の近くや各学年のホールなど多くの児童の目に触れる場所に展示コーナーを設置し、年間を通して各学年の掲示を入れ替えながら継続的に展示する。	
	（「なかよし集会」活動例Ⅱ） ○アンケートに感想等を書く。 ○児童会だよりでアンケート結果と今後に向けた呼び掛けを伝える。	□児童が異年齢でゲームに取り組んでいる写真、アンケート結果・感想、児童会だよりなどを掲示する。	
	（「クリーン＆グリーン運動」活動例Ⅰ） ○ポスターを作成する。 ○感想等を書く。	□児童同士や地域の方と協力して活動に取り組んでいる写真を掲示する。 □児童の感想や地域の人々からの感謝の声を掲示する。	
2月	（一年間を振り返ろう集会） ○これまでの活動を振り返り、自分の成長や友達や地域の方とのかかわりで感じたことを発表する。 ○いじめの未然防止に向けて、自分ができていることを、りんごを模した紙に一人一人が書き表す。 ○全校児童のりんごのカードを「いじめゼロの木」に貼付し、体育館に掲示する。	□PTAや、これまでの活動にかかわった地域の方にもカードの作成を依頼し、貼付する。 □集会では、これまでの活動の様子や地域の方の感想を動画などを用いて紹介する。 □一人一人だけでなく集団でいじめをなくすことを考え、行動することが、いじめを起ささないために大切であることに気付かせる。 ■「いじめゼロの木」の作成・掲示に進んで取り組み、いじめをしないという意識を高めている。【環】	

「いじめゼロの木」の作成例



## 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- これまでにを行った、いじめの未然防止に関する活動の様子や学んだこと、感じたことを日常的に見えるようにし、いじめの未然防止への児童の意識が一層向上するよう工夫します。
- 一年間の児童の取組を教師だけでなく、保護者や地域の人々も肯定的に評価することが重要であることから、各活動の様子を学校便りなどで広く発信したり、授業参観で公開したりします。
- 「いじめゼロの木」の掲示後は、友達の考えの参考になるところを見つけたり、自分が書いたことを実践できているかを振り返ったり、卒業や入学を迎える時期にも活用します。

## 【関連する活動】

- ・活動例Ⅱ「『なかよし集会』の指導の充実」（特別活動）
- ・活動例Ⅰ「クリーン＆グリーン運動」（特別活動、図画工作） など

※いじめの木の展示により、これまでの活動を振り返ることができるよう、なかよし集会やクリーン＆グリーン運動の掲示活動と関連を図ります。

## 小学校活動例L②「それって入力して大丈夫？」

項目 (エ (その他) 道徳教育・人権教育・情報モラル教育等との関連を図ったプログラム) 観点 (③環境づくり)


### 【活動内容】

高学年の児童がネット上に個人情報を入力することの危険性について学んだ内容をポスターにまとめて掲示します。

ねらい	<p>・ネットマナーの必要性について考え、自分の感じたことをポスターや標語などで表現することができる。</p> <p><b>【環境】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な生活を送るため、ルールを守って情報機器を使おうとする態度を育む。<b>【特別活動】</b></li> <li>・材料などの特徴をとらえ、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めることができる。<b>【図画工作】</b></li> </ul>		
対象	第6学年	教育課程上の位置付け	特別活動(学級活動(2)力)及び図画工作
指導者	各学級担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
6月	<p>(特別活動)</p> <p>○携帯電話から閲覧できる占いサイトなどでネット上に個人情報を入力することの危険性を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教材「スタモバ(注1)」を体験する。</li> <li>・感想や気付いたことを話し合う。</li> <li>・どのようなことに気を付けることが必要かを考える。</li> </ul>	<p>□気軽な気持ちで入力することの危険性を体感させる。</p> <p>□ネット上に個人情報を入力することの危険性を自分のこととして理解できるよう、同様の体験をした児童や身近な人物の実例を紹介する。</p> <p>■ネット利用の危険性を理解し、安全な生活を送るため、情報機器の使い方のルールを守ろうとしている。<b>【特】</b></p> <p>(注1)「スタモバ」は、岩手県立総合教育センターの「情報教育ウェブ」掲載の情報モラル教材です。詳しくは下記アドレスで確認を。  <a href="http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/moral/sutamoba/index.html">http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/moral/sutamoba/index.html</a></p>	
6~7月	<p>(図画工作)</p> <p>○個人情報の大切さやネット利用の危険性を友達や家族に知らせるポスターづくりをする。</p>	<p>□ポスターで表現する内容に合わせて、水彩絵の具で描くか、コラージュなどのモダンテクニックのを利用して表すかを選択させる。</p> <p>□メッセージや内容が伝わりやすい画面構成や色づかいを考えさせる。</p> <p>■自他の個人情報の大切さとネット利用の危険性を理解して利用することの必要性について意識している。<b>【環】</b></p> <p>■個人情報の重要さや、それを大切に考える必要性を伝えることができる色彩の効果や造形の美しさなどを考えている。<b>【図工】</b></p>	
7月	<p>○校内にポスターを掲示し、個人情報の扱いには十分気をつける必要があることを他の児童に知らせる。</p> <p>○掲示したポスターを鑑賞し、お互いの作品のよい点を交流する。</p> <p>○ポスターを「いじめ・ネットトラブル根絶!メッセージコンクール(注2)」等に応募する。</p> <p>○ポスターを町内の公共施設に掲示させてもらう。</p>	<p>□作品の意図を理解できるよう、画面構成や色づかいなど鑑賞のポイントを設定する。</p> <p>■デザインの目的に合わせて工夫された美しさを感じ取り、味わっている。<b>【図工】</b></p> <p>■ポスターの作成・掲示の取組を通して、ネットトラブルを起こさないという意識を高めている。<b>【環】</b></p> <p>(注2)北海道教育委員会では、毎年「いじめ・ネットトラブル根絶!メッセージコンクール」を行っており、作品の応募を受け付けています。詳しくは下記アドレスからご参照ください。  <a href="http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/ijinemessageconcour.htm">http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/ijinemessageconcour.htm</a></p>	

### 【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 指導する教師が「スタモバ」の機能を理解し、自校に合わせたプログラムを選択して実施することができるよう、「スタモバ」を校内研修等で教師が実際に体験し、指導のポイントについて共通理解を図ります。
- 「スタモバ」体験後、児童に個人情報流出の危険性と自他の個人情報の大切さを理解させるため、体験だけで終わらないよう、交流の時間を十分に設定し、自分に関係する身近なこととして考えられるようにします。
- 児童には相手に分かりやすくポスターで伝えるには、どういう工夫が必要かデザインや内容等を考えさせます。

### 【関連する活動】

- ・活動例K「なくそうネットトラブル」(特別活動) など

※ネットマナーの大切さについて理解を深めることができるよう、ネットトラブルをなくすためのメッセージを考える活動との関連を図ります。